

第3回向日市総合計画審議会会議 議事要点録

日 時	平成20年12月13日(土) 午後1時30分から午後3時40分まで
場 所	向日市役所3階 大会議室
出席委員	別添「第3回出席者名簿」参照のこと
欠席委員	3名
傍聴者	2名
内 容	下記のとおり

1 議 事

(1) 新総合計画「基本構想(第2次案)」について

「資料 向日市新総合計画『基本構想(第2次案)』」に基づき、事務局から説明があり、その後、意見交換が行われ、基本構想(第2次案)全体について審議された。

【意見の要旨】

ア、将来都市像について

委 員：サブタイトルに書かれている「7.67むこう」とはなにか。

事務局：現在の第4次総合計画の将来都市像にも掲げているが、本市の面積が7.67平方キロメートルから考えた造語である。西日本一あるいは全国で4番目という市域の狭さを、逆に強みとして、コンパクトなまちづくりに活かそうという意味を込めている。

委 員：最近市民になった人にはわからないのではないか。解説や補足をどこかに添える必要があると思う。

委 員：私も同意見。「7.67」という言葉はどこかで聞いたことはあるが、ぴんとこない人の方が多いのではないか。また、仮イメージ自体も役所が考えた言葉だなと感じた。

委 員：市域の狭さがコンパクトなまちづくりとイコールではない。「7.67」を将来都市像に掲げるならば、面積が小さい市でどういった施策を行うのかを、計画に明確に示す必要がある。また、3つの基本政策のうち、2つまでは「活力」と「やすらぎ」で表現されているが、人材育成に対応する言葉がない。基本政策と将来都市像が一致するような関係にすることも大事である。

- 委員：私は逆に、「7・67むこう」という言葉はいまの総合計画でも使われており、つながりがあって良いと思う。また、この言葉がまちづくりのキーワードとして市民に浸透していけば素敵だと思う。
- 委員：私も賛成だ。将来都市像はひとつのイメージであり、キャッチフレーズでもある。「7・67とは何か？」と市民に思わせて、考えていただくことも重要ではないか。また、向日市は古い歴史があり落ち着いたのあるまちだと思うので、「やすらぎ」という言葉がふさわしい。
- 委員：前回の審議会でも、現在の総合計画を踏まえて新しい計画を作っていくことが確認されたと思うが、その意味で、いまの総合計画の将来都市像を継承することは不自然ではない。しかし、これからの5年、10年後の将来を見据えると、広域的な行政のあり方や仕組みも考える必要があり、その点ではコンパクトなまちづくりという概念をあまり強調することはいかなものか。
- 委員：「活力とやすらぎ」だけでなく、別のキーワードを使って案を考えてもらえないか。また、「定住都市」についても、向日市はすでに定住都市になって久しく、いまさらの感が強い。
- 委員：前回審議会資料で提示された「小中学生のまちづくり作文」を読んだが、最優秀作文の主題がどちらも「大人と子どものふれあい」であったので、例えば『7・67ふれあいのまち』などはどうか。
- 委員：市民と行政、大人と子どもが一緒になってまちづくりに取り組んでいくというイメージで、『むこう（向日）にはみんなでつくるまちがある』というフレーズを考えてみた。
- 委員：小さなまちだが、市民みんなが頑張っているというテーマが良い。
- 委員：障害者の立場としては「やすらぎ」という言葉に安心感を覚える。これからのまちづくりについては「やすらぎ」を中心に考えていただきたい。
- 委員：コンパクトシティの概念は、市域面積（の狭さ）ではなく、大きな面積のまちでどのように都市機能を集積させるかという発想である。向日市のように人口密度が高い状態では、機能集積を図ることは逆に困難であり、今後、仮に合併しないのなら、豊かな人に住んでもらえるよう環境を良くしていかなければならない。どうすれば、市を豊かにできるかというアプローチから将来都市像を考えてみてはどうか。
- 委員：「活力とやすらぎ」が並記されているが、「活力」は大都市、「やすらぎ」はリゾート地のイメージがあり、相反するものが並んでいるという印象がある。市民は「活力」という言葉にどういったイメージを持つのか。
- 副市長：市民から「向日市は元気がない」という声を聞くことがあるが、これからの人口構造を考えると、現在の行政水準を維持しつづけることが難しく、産業育成に力を入れていかなざるを得ない。また、一方で市民が健康で生き生きと暮らせるよう、都市基盤をはじめとする居住環境の整備も重要であり、これらを総称する意味で「活力とやすらぎ」を将来都市像の仮イメージに掲げて、今後、10年間で一体的に取り組んでいきたいと考えている。
- 会長：所定の時間では結論がまとまらないので、もう一度将来都市像について審議し、できれば次回で一定結論を得たい。

イ、「土地利用構想」について

委員：「歴史・文化・健康軸」が市内で完結しているが、旧西国街道など周辺市町とも関わりが深いので、市外まで矢印を伸ばせないか。また、国道171号線の西側にある「田園緑地ゾーン」は農地ではあるが、一方で産業振興を考えると、今後、ここをどう活用するかが市の将来に大きな影響を与えらると思う。

委員：都市計画道路の見直しについて、この土地利用構想に生かされるのか。

事務局：現在、見直しを行っているが、反映できるものは土地利用構想及び基本計画のなかに反映させたい。

委員：第4次総合計画では西ノ岡丘陵を通過して南北に「自然・歴史・文化軸」が引かれていたが、第5次総合計画案において、この軸線が消えているのは何故か。

事務局：先ほどもご質問いただいたように、現在、外環状線を含めた都市計画道路の見直しを行っているため、削除した。

委員：JR向日町操車場については、向日町競輪場も含めて産業観光資源として活かす方策を考えてみてはどうか。また、阪急洛西口駅については、市の玄関口としての位置づけも考慮する必要があるのではないか。

ウ、「基本政策」について

委員：ぜひ「美しい景観づくり」という文言を入れて欲しい。

事務局：ご指摘の点については、基本政策の1つ目において「景観づくり」に相当する施策を想定しているのので、ここで触れるよう検討したい。

委員：1つ目の基本政策「安心・安全に暮らせる生活基盤を創り出す」の説明のなかで「互いの助け合いと協働」とあるが、ここで言う「協働」の意味がよくわからない。もっとわかりやすく表現してほしい。

委員：子育てをしながら働く人達に触れた箇所がない。子育て支援についてもメッセージがほしい。

(2) その他

当日配付資料「第2回向日市総合計画審議会会議・議事要点録」について、出席委員に内容を確認してもらい、特に追加・修正がなく了承された。

2 次回審議会の日程調整について

次回は、2月20日(金)午後1時30分から開催予定。(開催場所は後日決定)

以 上